

平成18年度事業報告

1. 平成18年度優秀業績の表彰

平成18年度優秀業績については慎重に検討された結果、二木賞については該当者なしと決定された。また、以下の研究業績に対して日本感染症学会北里柴三郎記念学術奨励賞が授与されることとなった。

寺尾 豊 氏 (大阪大学大学院歯学研究科口腔分子感染制御学講座口腔細菌学教室) 他3名

「Multifunctional glyceraldehyde-3-phosphate dehydrogenase *Streptococcus pyogenes* is essential for evasion from neutrophils」

(The Journal of Biological Chemistry Vol.281, No.20, 14215-23, 200)

2. 講演会

平成18年4月20日、21日、東京都・ホテル日航東京において第80回学術講演会を山口恵三会長主宰のもとに開催した。

- | | | |
|---|--|--|
| a | 会員の業績研究発表 | 366題 |
| b | 特別講演
オピニオン・リーダーが語る感染症学の未来像 | 2題 |
| | 1 ウイルス、宿主そして社会 | 東京大学医科学研究所 岩本 愛吉
司会：北里大学医学部感染症学 砂川 慶介
長崎大学医学部第二内科 河野 茂
司会：長崎大学 原 耕平 |
| | 2 呼吸器感染症 Next Mile Stoneは? | |
| c | 招請講演
分子病態から感染症をサイエンスする | 2題 |
| | 1 腸管粘膜における赤痢菌と宿主の攻防 | 東京大学医科学研究所，東京大学医科学研究所国際感染症研究センター，科学技術振興機構 笹川 千尋
司会：東邦大学医学部微生物・感染症学 山口 恵三
東邦大学医学部免疫学講座 垣内 史堂
司会：東京女子医科大学微生物学免疫学教室 内山 竹彦 |
| | 2 ケモカインによるT細胞免疫反応制御 CCL19/21を中心に | |
| d | 80回記念企画
感染症学のBreak - Throughを目指して | 3題 |
| | 1 劇症型感染症：重症化のメカニズムから治療・対応策まで | 司会：杏林大学医学部第一内科 後藤 元
東北大学医学部保健学科基礎検査学講座病原検査学分野 川上 和義
国保旭中央病院麻酔科 清水 可方
東京女子医科大学医学部微生物学免疫学教室 内山 竹彦
杏林大学医学部第1内科 青島 正大
東北大学病院検査部 宮里 明子
琉球大学感染病態制御学講座分子病態感染症学分野 比嘉 太
東邦大学医学部微生物・感染症学講座 館田 一博
独立行政法人国立病院機構東京医療センター内科 青木 泰子
聖マリアンナ医科大学微生物学教室・感染制御部 竹村 弘
司会：東京大学医科学研究所感染免疫大部門炎症免疫学分野 清野 宏
国立国際医療センター研究所適正技術開発・移転研究部 狩野 繁之
大阪大学微生物病研究所 堀井 俊宏
独立行政法人国立病院機構近畿中央胸部疾患センター臨床研究センター 岡田 全司
長崎大学熱帯医学研究所病原体解析部門 森田 公一
東京大学大学院医学系研究科分子予防医学教室 松島 綱治
東京大学医科学研究所感染免疫大部門炎症免疫学分野 清野 宏
司会：東京大学医学部附属病院呼吸器内科 滝澤 始
大分大学医学部感染分子病態制御講座 門田 淳一
長崎大学医学部第二内科 東山 康仁
大分大学医学部感染分子病態制御講座 時松 一成
昭和大学医学部第一内科 國分三三男
東京医科歯科大学大学院人体病理学分野 江石 義信
独立行政法人国立病院機構東名古屋病院臨床研究部/呼吸器科 小川 賢二 |
| | 2 新世代ワクチン・ストラテジー | |
| | 1) SE36マラリアワクチンの開発 | |
| | 2) 新しい結核ワクチン研究 | |
| | 3) ウエストナイル熱ワクチン | |
| | 4) 組換えワクシニアウイルスによるSARSワクチンの開発 | |
| | 5) 粘膜免疫を応用した感染症ワクチン開発ストラテジー | |
| | 3 感染・炎症・アレルギーの接点を求めて：呼吸器感染症を中心に | |
| | 1) DPBとCFにおける宿主反応と気道感染 | |
| | 2) トリコスポロン肺疾患：宿主免疫による多様性 | |
| | 3) 気管支喘息におけるウイルス感染症の意義：発症と急性増悪 | |
| | 4) 内因性感染症としてのサルコイドーシスの疾病発生機構 | |
| | 5) アスペルギルス肺疾患：感染とアレルギー | |
| e | キーノートレクチャー
国際寄生虫対策「橋本イニシアティブ」の意義と展開 | 1題 |
| | 慶応義塾大学医学部熱帯医学・寄生虫学教室 竹内 勤
司会：東京医科歯科大学医歯学総合研究科 太田 伸生 | |
| f | 教育講演 | 9題 |
| | 1 感染症Spot Diagnosis：皮疹・発疹を中心に | 千葉大学大学院医学研究院小児病態学 石和田稔彦
司会：神戸市立中央市民病院感染症科 春田 恒和
和歌山県立医科大学耳鼻咽喉科 保富 宗城
司会：藤田保健衛生大学第二教育病院耳鼻咽喉科 鈴木 賢二
長崎大学大学院医歯薬学総合研究科口腔病原微生物学分野 中山 浩次 |
| | 2 耳鼻咽喉科感染症の特殊性と生体反応 変幻自在な細菌にどう対処するか？ | |
| | 3 口腔内感染症と全身性疾患 | |

	司会：東邦大学医学部外科学第三講座	炭山 嘉伸
4 尿路とバイオフィルム	岡山大学大学院医歯薬学総合研究科泌尿器病態学	公文 裕巳
	司会：杏林大学医学部感染症学	神谷 茂
5 プリオンの脅威：牛海綿状脳症（BSE）の危険性を考える	動物衛生研究所プリオン病研究センター	横山 隆
	司会：京都大学医学部保健学科	笹田 昌孝
6 感染症ガイドライン 臨床的インパクトから改善点まで	財団法人淳風会倉敷第一病院呼吸器センター	松島 敏春
	司会：東北大学加齢医学研究所呼吸器腫瘍研究分野	渡辺 彰
7 バクテリオファージ療法：その現状と将来展望	高知大学医学部感染分子病態学教室	今井 章介
	司会：島根大学医学部微生物・免疫学教室	富岡 治明
8 食の安全：輸入食物寄生虫感染症	東京都立墨東病院感染症科 中村（内山）ふくみ	
	司会：宮崎大学	名和 行文
9 旅行医学と感染症	国立国際医療センター国際疾病センター渡航者健康管理室	金川 修造
	司会：国立感染症研究所感染症情報センター	木村 幹男
f シンポジウム		13題
1 難治性真菌感染症 診断・治療におけるコツとPitfalls	司会：千葉大学真菌医学研究センター	亀井 克彦
	長崎大学医学部第二内科	宮崎 義継
1) 血清診断	帝京大学溝口病院第4内科	吉田 稔
2) 画像診断	東京都立駒込病院放射線科	酒井 文和
3) 抗真菌薬の特徴を考慮した投与方法	長崎大学医学部第二内科	宮崎 義継
4) Febrile Neutropeniaにおける真菌感染症の見極めと抗真菌薬使用のポイント	国立がんセンター中央病院造血幹細胞移植室	福田 隆浩
	東邦大学医学部病院病理学講座	渋谷 和俊
5) 深在性真菌症の病態と組織・細胞診断	司会：聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院小児科	秋田 博伸
2 小児科外来診療における耐性菌の現状と対策	川崎医科大学小児科学第二講座	尾内 一信
	富士重工業健康保険組合総合太田病院小児科	佐藤 吉壮
1) 小児科外来における耐性菌の現状	札幌鉄道病院小児科	成田 光生
2) 肺炎マイコプラズマ	川崎医科大学小児科学2講座	古村 速
3) 黄色ブドウ球菌	国立病院機構三重病院	神谷 齊
4) 肺炎球菌ワクチン	特定医療法人財団石心会狭山病院小児科	豊永 義清
5) ニューキノロン薬の必要性	高知大学医学部感染分子病態学教室	松崎 茂展
6) ワクチン，抗菌薬以外のアプローチ		
3 HIV感染症：一般外来で遭遇する感染症の1つとして	司会：国立国際医療センターエイズ治療・研究開発センター	岡 慎一
	東京大学医科学研究所感染免疫内科	中村 哲也
1) 日本のHIV感染症の疫学と日和見感染症の動向	富山大学医学部感染予防医学・感染症治療部	安岡 彰
2) 亜急性の経過で発症した間質性肺炎：ニューモシスティス肺炎	東京大学医科学研究所附属病院感染免疫内科	藤井 毅
3) 神経科外来で遭遇するHIV感染症	山王病院神経内科，国際医療福祉大学臨床医学研究センター	鷲崎 一成
4) 結核をみたらHIV感染症を疑う	国立病院機構東京病院呼吸器科	永井 英明
5) HIV感染症を疑うべきSTD	国立国際医療センターエイズ治療研究開発センター	田沼 順子
4 蔓延するSTD感染症：若者が危ない	司会：産業医科大学泌尿器科	松本 哲朗
	神戸大学医学部附属病院手術部・感染制御部	荒川 創一
1) HIV感染症	国立国際医療センターエイズ治療・研究開発センター	岡 慎一
2) 多様化する淋菌感染症	産業医科大学泌尿器科	村谷 哲郎
3) 性器クラミジア感染症	愛知医科大学産婦人科学講座	野口 靖之
4) <i>Mycoplasma genitalium</i> 感染症	宮崎大学医学部泌尿器科	濱砂 良一
5) 若者への啓発の実際 泌尿器科医の立場から		
	神戸大学大学院医学系研究科器官治療医学講座腎泌尿器科学分野	田中 一志
5 腸管感染症：最近の話題と知見	司会：横浜市立市民病院感染症部	相楽 裕子
	国立感染症研究所細菌部	渡辺 治雄
1) ノロウイルス感染症	国立感染症研究所ウイルス第二部	武田 直和
2) <i>Clostridium difficile</i> 感染症	国立感染症研究所細菌第二部	加藤 はる
3) <i>Providencia alcalifaciens</i> 食中毒	大阪大学微生物病研究所・国際感染症研究センター・病原微生物資源室	余 明順
4) 腸管出血性大腸菌感染症	東京都健康安全研究センター微生物部	甲斐 明美
5) 多剤耐性 <i>Salmonella</i> Typhimurium感染症	国立感染症研究所細菌第一部	泉谷 秀昌
6 輸入感染症：見逃すと死亡する可能性の高いあるいは社会的影響の大きい感染症	司会：東京都立墨東病院感染症科	大西 健児
	国立国際医療センター研究所	狩野 繁之
1) 熱帯熱マラリア	東京都立荏原病院感染症科	角田 隆文
2) MELIOIDOSIS 十分な治療を継続すべき感染症	国立感染症研究所感染病理部	佐多徹太郎
3) ウイルス性出血熱	東京都立駒込病院小児科	高山 直秀
4) 狂犬病	司会：日本大学医学部臨床検査医学	熊坂 一成
7 感染症診療における医師と検査技師の連携～これからの微生物検査～	医療法人社団徳風会高根病院	菅野 治重
	サクラ精機（株）	青木 眞
1) 検査情報の感染症診療への生かし方	帝京大学医学部附属病院中央検査部	川上小夜子
2) 検査の各段階における検査成績の報告法	天理よろづ相談所病院臨床病理部	阿部 教行
3) 感染症治療を支援する感受性検査	岡山大学医学部・歯学部附属病院中央検査部	草野 展周
4) 医師と検査技師の協力関係		

8	感染症の新しい治療戦略	司会：九州大学大学院医学研究院附属胸部疾患研究施設	藤田 昌樹
	1) 感染症に対する遺伝子治療 アンチセンスおよびSiRNAを用いた新規治療戦略	長崎大学医学部第二内科	柳原 克紀
	2) 緑膿菌のIII型分泌毒素に対する治療戦略	長崎大学医学部第二内科	柳原 克紀
	3) 遺伝子改変樹状細胞を用いた治療免疫の誘導	京都第一赤十字病院麻酔科, カリフォルニア大学サンフランシスコ校麻酔周術期科	佐和 貞治
	4) 各種感染病態の治療における酸化ストレス制御の意義	東北大学加齢医学研究所呼吸器腫瘍研究分野	菊地 利明
	5) 肺胞マクロファージに対するアポトーシス誘導を中心とした肺抗酸菌症新規治療法の開発	熊本大学大学院医学薬学研究部呼吸器病態学分野, 薬物治療学分野	佐藤 圭創
9	ICTが知っておきたい基本的周術期感染対策	九州大学大学院医学研究院胸部疾患研究施設	藤田 昌樹
	1) 手術部位感染サーベイランス	司会：兵庫医科大学感染制御学	竹末 芳生
	2) 手術時手洗いにおける水道水使用の検討	東邦大学医療センター大橋病院呼吸器診断部第三外科	草地 信也
	3) 中心静脈カテーテル管理	コメンテーター：埼玉医科大学消化器・一般外科	小山 勇
	4) 栄養管理	特別発言：東邦大学医学部外科学第三講座	炭山 嘉伸
	5) ドレーンについて	国立感染症研究所感染症情報センター	森兼 啓太
	6) 創ケアの基本	三重大学大学院医学系研究科生命医科学専攻病態修復医学講座先端的外科技術開発学	小林美奈子
	7) 予防的抗菌薬の適切な投与法を考える	医療法人川崎病院外科	井上 善文
10	実践バイオテロ対策	防衛医科大学校	深柄 和彦
	1) バイオテロを意識すべき状況と初期の対応	市立豊中病院外科	清水 潤三
	2) もし炭疽菌が東京でばらまかれたら	広島大学病態制御医科学講座外科	大毛 宏喜
	3) 厚生労働省研究班によるバイオテロ対策マニュアルについて	埼玉医科大学消化器一般外科	小山 勇
	4) バイオテロ病原体としての出血熱ウイルスおよび痘そうウイルス感染症の診断法の開発	司会：国立感染症研究所感染病理部	佐多徹太郎
	5) バイオテロ対策のためのワクチン	東京医科大学微生物学講座	松本 哲哉
	追加発言：天然痘テロ対策に影響する因子の検討	国立感染症研究所ウイルス第1部	西條 政幸
11	多剤耐性緑膿菌感染症：耐性メカニズムから疫学・臨床・抗菌薬療法まで	九州大学生体防御医学研究所	吉開 泰信
	1) 多剤耐性緑膿菌の分離状況と対策の要点	厚生労働省仙台検疫所	岩崎恵美子
	2) 集団感染事例への対応	司会：国立感染症研究所細菌第二部	荒川 宜親
	3) MDRPの耐性メカニズム（外膜透過性とエフラックス機構）	大阪大学医学部附属病院感染制御部	朝野 和典
	4) MDRPの耐性メカニズム（ β -ラクタマーゼ耐性）	国立感染症研究所細菌第二部	荒川 宜親
	5) 抗菌薬療法の実態とその対策	大阪大学医学部附属病院感染制御部	朝野 和典
	6) 最適抗菌薬療法の探索：ブレイクポイント・チェッカーボード法の有用性を中心に	京都薬科大学薬学部, 21COE・微生物学教室	後藤 直正
		東邦大学医学部微生物・感染症学講座	石井 良和
		埼玉医科大学感染症科・感染制御科医科大学	前崎 繁文
12	感染症の画像診断；その有用性と限界	東邦大学医学部微生物・感染症学講座	館田 一博
	1) 中枢神経系	司会：都立駒込病院放射線科	酒井 文和
	2) 胸部肺外感染症	東邦大学大橋病院放射線科	寺田 一志
	3) 肺感染症	都立駒込病院放射線科	酒井 文和
	4) 腹部感染症の画像診断 消化管と腹膜感染症を中心に	山口県立総合医療センター	田中 伸幸
	5) 脊椎・骨軟部	東邦大学医学部総合診療・急病科学講座	島田 長人
13	致死性のEBウイルス関連疾患の診断と治療	沼津市立病院放射線科	藤本 肇
	1) 慢性活動性EBウイルス感染症	司会：高知大学医学部小児思春期医学教室	脇口 宏
	2) 成人における慢性活動性EBV感染症	九州大学医学部保健学科病態情報学・九州大学病院第一内科	永淵 正法
	3) X連鎖リンパ増殖性疾患	高知大学医学部小児思春期医学	前田 明彦
	4) EBV関連リンパ増殖症に対するモニタリング	九州大学医学部保健学科病態情報学・九州大学病院第一内科	永淵 正法
	5) EBV関連T/NKリンパ増殖症に対する治療戦略	富山大学医学部小児科	金兼 弘和
	6) EBウイルス関連疾患に対する新たな治療戦略	名古屋大学大学院医学系研究科ウイルス学分野	木村 宏
		大阪府立母子保健総合医療センター血液腫瘍科	岡村 隆行
		高知大学医学部感染分子病態学教室	今井 章介
g	パネルディスカッション		
	世界標準の感染症診療と教育の実現に向けて	司会：順天堂大学大学院COE感染制御科学	堀 賢
	1) 米国での感染症診療の実態	自治医科大学附属病院感染制御部	五味 晴美
	2) 英国での感染症診療と教育の実態	自治医科大学附属病院感染制御部	五味 晴美
	3) 感染症フェロシップ・亀田総合病院の取り組み	順天堂大学大学院COE感染制御科学	堀 賢
	4) 静岡がんセンターにおける感染症診療および教育（感染症フェロシップおよび一般医教育）の現状とこれからの展望	亀田総合病院総合診療感染症科	岩田健太郎
	5) 東京女子医科大学における感染症診療と教育の実態	静岡がんセンター感染症科	大曲 貴夫
	6) 国内外の抗菌薬の用法・用量について	東京女子医科大学感染症科	菊池 賢
		（独）医薬品医療機器総合機構	佐藤 淳子

h	クリニカル・ファイル 失敗から学ぶ感染症学NO.2	座長：東京都老人医療センター感染症科 東京慈恵会医科大学泌尿器科 東京慈恵会医科大学感染制御部	稲松 孝思 清田 浩 加藤 哲朗	1 題
	1) 肝移植後に発生した腎アスペルギルス症の1例	国立国際医療センター・エイズ治療研究開発センター	本田美和子	
	2) 重篤な血栓性血小板減少性紫斑病を契機にHIV感染が判明し、血漿交換と抗HIV治療薬導入によって救命しえた一例。	東京女子医科大学感染症科	菊池 賢	
	3) シリアで感染したブルセラ症の一例	国立国際医療センターエイズ治療・研究開発センター	上田 晃弘	
	4) <i>Nocardia farcinida</i> による敗血症と肺炎、頭蓋内病変が認められたHIV患者	亀田総合病院総合診療感染症科	岩淵千太郎	1 題
	5) 脾摘後、肺炎球菌予防接種なく、激症型肺炎球菌敗血症性ショックとなった一例			
i	イブニングセミナー 難治性耐性菌感染症の併用治療・予防薬としてのマクロライド	司会：奈良県立医科大学感染症センター 大阪大学微生物病研究所感染症国際研究センター高病原性感染症研究部門 長崎大学医学部第二内科	三笠 桂一 大石 和徳 柳原 克紀	
	1) マクロライドを用いた病原因子の制御	奈良県立医科大学附属病院感染症センター	笠原 敬	
	2) 耐性肺炎球菌に対するマクロライドの有効性	大分大学医学部附属病院検査部	平松 和史	
	3) 緑膿菌バイオフィームとマクロライド系抗菌薬	和歌山県立医科大学耳鼻咽喉科	山中 昇	
	4) 上皮細胞に付着、侵入したインフルエンザ菌に対するマクロライドの有効性	長崎大学熱帯医学研究所感染症予防治療分野	渡辺 浩	
	5) インフルエンザ菌によるバイオフィームとマクロライド			
j	インターラクティブ・カンファランス 目で見る感染症	オーガナイザー：長崎大学医学部第二内科 倉敷第一病院呼吸器病センター	河野 茂 松島 敏春	1 題
k	インфекションコントロールセミナー アウトブレイクへの対応5	ナビゲーター：東北大学大学院医学系研究科内科病態学講座感染制御・検査診断学分野	賀来 満夫	1 題
l	教育セミナー			17 題
	1 クォンティフェロンTB-2Gによる結核感染の診断 院内感染対策と集団感染事例への応用	国立病院機構近畿中央胸部疾患センター 司会：国立病院機構近畿中央胸部疾患センター	鈴木 克洋 坂谷 光則	
	2 耐性菌治療の新展開 耐性菌抑制の方策と新しい治療薬も含めて	東北大学加齢医学研究所呼吸器腫瘍研究分野 司会：国立病院機構東京医療センター小児科	渡辺 彰 岩田 敏	
	3 間質を病変の場とする呼吸器感染症の診断と治療	琉球大学医学部感染病態制御学講座 司会：大分中村病院総合臨床研究センター	藤田 次郎 那須 勝	
	4 感染症外来診療において今、考えるべきこと	杉田耳鼻咽喉科医院 司会：川崎医科大学呼吸器内科	杉田 麟也 二木 芳人	
	5 レジオネラはどうやってマクロファージ内で生き延びるのか	佐賀大学医学部病因病態科学講座生体防御学分野 司会：日本赤十字社長崎原爆諫早病院	宮本比呂志 斎藤 厚	
	6 これからの肺炎診療に求められること	杏林大学医学部第1内科 司会：名古屋大学大学院医学系研究科微生物・免疫学	青島 正大 太田美智男	
	7 急性・慢性呼吸器感染症の新しい治療戦略 いわゆるマクロライド新作用を絡めて	大分大学医学部感染分子病態制御講座 司会：日本医科大学内科学第四	門田 淳一 工藤 翔二	
	8 抗菌化学療法を科学する	岐阜大学生命科学総合研究支援センター 司会：名古屋市立緑市民病院	三鴨 廣繁 品川 長夫	
	9 市中肺炎における肺炎球菌ワクチンの有用性	信楽園病院呼吸器内科 司会：東京大学医学部感染症内科	青木 信樹 小池 和彦	
	10 今、問題となっている薬剤耐性菌出現の背景を考える	北里大学医学部微生物学教室 司会：京都薬科大学微生物学教室	井上 松久 西野 武志	
	11 感染治療と免疫予防のParadigm Shift	和歌山県立医科大学耳鼻咽喉科 司会：東京大学大学院医学系研究科国際保健学専攻疫達医学教室	山中 昇 牛島 廣治	
	12 カルバペネム薬の耐性変異株選択抑制能について	群馬大学大学院医学系研究科細菌感染制御学 司会：東京女子医科大学感染対策部感染症対策科	池 康嘉 戸塚 恭一	
	13 新しい核酸増幅・検出法によるクラミジアと淋菌の同時検出について	Outpatients Centre for the Diagnosis of Infections Venereal Diseases, IUSTI 司会：江東病院産婦人科	Angelika Stary 松田 静治	
	14 感染症診療への基本的アプローチから抗菌薬適正使用へ	静岡県立静岡がんセンター感染症科 司会：聖路加国際病院内科感染症科	大曲 貴夫 古川 恵一	
	15 サーベイランス、疫学調査の重要性とそのデータ活用	長崎大学医学部・歯学部附属病院第二内科 司会：国立感染症研究所感染症情報センター	平湯 洋一 岡部 信彦	
	16 ガイドラインの検証からわかったこと～耐性菌を増やさずに臨床効果を上げるためには～	東北大学加齢医学研究所呼吸器腫瘍研究分野 司会：長崎大学大学院感染分子病態学講座（第2内科）	渡辺 彰 河野 茂	
	17 Sepsis治療における最近の知見	兵庫医科大学感染制御学 司会：慶應義塾大学医学部救急部	竹末 芳生 相川 直樹	

- m ICD講習会 1題
 検証：院内感染事例 なぜ発生したか？ その時の対応は？ 司会：京都大学大学院医学研究科臨床病態検査学 一山 智
 1) バンコマイシン耐性腸球菌（VRE）の院内感染対策について VREアウトブレイクを経験して
 洛和会音羽病院 坂口徹太郎
 2) MRSA、VREアウトブレイク事例を経験して 大阪大学医学部附属病院感染制御部 朝野 和典
 3) 外科領域におけるMRSA感染症の多発事例 秋田大学医学部統合医学講座臨床検査医学 萱場 広之、荻原 順一
 4) レジオネラ院内肺炎 京都大学大学院医学研究科臨床病態検査学 飯沼 由嗣

3. 雑誌刊行

感染症学雑誌 第80巻1号より逐次刊行した。
 Journal of Infection and Chemotherapy Vol.12, No.1より逐次刊行した。
 地方会総会プログラムを感染症学雑誌に掲載。

4. 地方会

- 第55回東日本地方会学術集会は、平成18年10月26日、27日の両日、後藤 元会長のもとで第53回日本化学療法学会東日本支部総会（戸塚恭一 会長）と合同で東京都・京王プラザホテルで行われた。
 会長講演 2題、特別講演 2題、シンポジウム 5題、ICD講習会 1題、教育セミナー 18題、ベーシックレクチャー 1題、感染症アップデート 1題
 一般演題 101題
 参加人数 1120名
- 第49回中日本地方会学術集会は、平成18年10月28日、山口宣夫会長のもとで金沢市・金沢市アートホールで行われた。
 特別講演 1題、ランチョンセミナー 2題、学術奨励賞 2題
 一般演題 45題
 参加人数 120名
- 第76回西日本地方会学術集会は、平成18年11月23日、24日の両日、小熊恵二会長のもとで岡山市・岡山コンベンションセンターで行われた。
 特別講演 1題、会長講演 1題、西日本感染症・化学療法学会合同シンポジウム（ICD講習会） 1題
 教育セミナー 7題
 一般演題 101題
 参加人数 466名

5. 院内感染対策講習会

1) 講習場所、期間及び人員

札幌医科大学大講堂	(医師)	平成18年 11月 6日、7日	67名
	(看護師)	平成18年 11月 6日、7日	70名
	(薬剤師)	平成18年 11月 6日、7日	76名
こまばエミナース 大ホール	(医師)	平成18年 10月19日、20日	108名
	(看護師)	平成18年 10月19日、20日	115名
	(薬剤師)	平成18年 10月19日、20日	114名
京都大学百周年時計台記念館	(医師)	平成18年 9月12日、13日	121名
	(看護師)	平成18年 9月12日、13日	117名
	(薬剤師)	平成18年 9月12日、13日	120名
九州大学医学部百年記念講堂	(医師)	平成18年 10月21日、22日	71名
	(看護師)	平成18年 10月21日、22日	79名
	(薬剤師)	平成18年 10月21日、22日	82名
コムズ	(臨床検査技師)	平成18年 9月15日、16日	135名
崎陽軒	(臨床検査技師)	平成18年 10月 6日、7日	159名
合計			1433名

2) 講習内容

(医師)	血液媒介感染等	40分
	院内感染関連微生物学	1時間10分
	院内感染対策	1時間40分
	院内感染対策	1時間40分
	院内感染関連法令	30分
	院内感染の薬物療法	1時間20分
	院内感染対策のシステム化	1時間10分
	SARSの院内感染対策	40分
	パネルディスカッション	1時間45分
	(看護師)	血液媒介感染等
院内感染関連微生物学		1時間10分
消毒および滅菌の基礎と実際		1時間10分

	環境管理	1時間40分	
	院内感染関連法令	30分	
	感染防止の実際	1時間20分	
	看護管理上の対応	1時間10分	
	SARSの院内感染対策		40分
	パネルディスカッション	1時間45分	
(薬剤師)	血液媒介感染等	40分	
	院内感染関連微生物学	1時間10分	
	院内感染対策	1時間10分	
	院内感染対策	1時間40分	
	院内感染関連法令	30分	
	院内感染の薬物療法	1時間20分	
	院内感染対策のシステム化	1時間10分	
	SARSの院内感染対策		40分
	パネルディスカッション	1時間45分	
(臨床検査技師)	感染対策と検査室	1時間	
	感染症の診断・治療・防止に役立つ検査結果の迅速報告方法		
		1時間	
	ICTにおける臨床検査技師の役割	1時間	
	手指衛生管理と消毒薬の適正使用	1時間	
	アウトブレイク時の検査室対応の基本と実践 - ワークショップ -		
		3時間30分	
	抗菌薬の特徴とその使い方	1時間	
	耐性菌検出患者への対応	1時間	
	針刺し事故時の対応		1時間
	院内ウイルス感染対策	1時間	
	院内感染対策、今これだけは必要	1時間30分	
	統括、質疑応答	30分	

3) 院内感染対策講習会Q&A 発行(ホームページ掲載)。

6. 施設内MRSA対策相談窓口業務

平成18年 3月1日~平成18年3月31日	質問件数	5件
平成18年 4月1日~平成19年2月28日	質問件数	51件

7. 感染症専門医

1) 感染症専門医試験合格者 35名

五十嵐尚志	池ヶ谷諭史	板垣 達則	伊藤 穰	井戸田一朗	岩谷 逸平	大路 剛	大曲 貴夫
小田 智三	笠原 敬	萱場 広之	狩野 博嗣	川畑 雅照	北沢 貴利	小林 慈典	清水健一郎
新庄 正宜	菅沼 明彦	鈴木 里和	高橋 孝	田嶋 克史	千酌 浩樹	利根川 賢	中尾 安秀
鳴河 宗聡	西屋 克己	原永 修作	日谷 明裕	藤田 信一	宮沢 直幹	矢野 寿一	山口 徹也
山口 敏行	吉河 道人	吉田 順一					

2) 更新者 139名

3) 指導医 517名

4) 感染症専門医認定研修施設 169施設(ホームページ参照)

8. ICD制度協議会

新規認定者 186名 更新者 262名

9. 『抗MRSA薬適正使用の手引き』を社団法人日本化学療法学会と合同で厚生労働省に提出した。